

確かな暮らしを守り、信州からゆたかな社会を創る

- 令和7年度 建設部当初予算額 1,183億8,230万8千円  
うち公共事業費（災害復旧含む）899億8,183万3千円
- 令和6年度1月補正予算額 650億1,363万9千円  
うち公共事業費 441億2,303万5千円（防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化予算等）

〇「建設DX」による省人化・省力化、生産性の向上に視点を置きながら、各事業を推進します

1 持続可能で安定した暮らしを守る

(1) 持続可能な脱炭素社会の創出

「長野県ゼロカーボン戦略」に基づく住宅のZEH化や、「信州まちなかグリーンインフラ推進計画」に基づく緑地や街路樹の整備などにより、脱炭素まちづくりを推進します

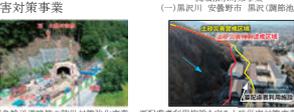
- 〇住宅オールZEH化推進事業
- 〇県営住宅「5R」プロジェクト推進事業
- ※ZEH(ゼロエネ)※ZEH(ゼロエネ)※ZEH(ゼロエネ)※ZEH(ゼロエネ)※ZEH(ゼロエネ)
- ※SR(リノベーション)※R(リノベーション)※R(リノベーション)※R(リノベーション)
- ※R(リノベーション)※R(リノベーション)※R(リノベーション)※R(リノベーション)
- ※R(リノベーション)※R(リノベーション)※R(リノベーション)※R(リノベーション)



(2) 災害に強いまちづくりの推進

能登半島地震等の教訓も踏まえ、激甚化・頻発化する自然災害から県民の生命と財産を守るため、ハード・ソフトの両面から県土の強靱化や地域防災力の向上に取り組めます

- 〇流域治水対策事業
- 〇流域を保全する土砂災害対策事業
- 〇要配慮者利用施設を守る土砂災害対策事業
- 〇緊急輸送道路等の防災対策強化事業
- 〇災害時における道路の迂回機能強化事業
- 〇冬期交通を確保する除雪・雪害対策事業
- 〇住宅・建築物耐震改修総合支援事業
- 〇盛土対策事業
- 〇つなげる防災教育事業



(3) 社会的なインフラの維持・発展

インフラの老朽化について、持続可能なインフラメンテナンスの実現に向けて「事後保全型」から「予防保全型」への本格転換に取り組みます

- 〇長寿命化計画等に基づくインフラの適正管理事業
- 〇道路施設、河川施設、砂防施設、公園施設、県営住宅



(4) 県民生活の安全確保

児童・生徒等を交通事故から守るため、通学路の安全施設（歩道等）を整備します

- 〇通学路等の交通安全対策推進事業



2 創造的で強靱な産業の発展を支援する

(1) 地域の建設業等における担い手の確保の推進

建設産業の次世代を担う人材の確保・育成を推進するため、産学官の連携により、小中高大生の学び場（現場見学会、出前講座、職場体験、測量・設計・工事の実験、建設産業の紹介等）を拡大します

- 〇建設産業人材確保・育成事業等



(2) 建設産業の振興

生産性向上と労働環境の改善を図るため、先進技術の活用や女性・若者など誰もが働きやすい環境改善、入札契約制度の適正化等に取り組めます

- 〇建設DX推進事業
- 〇市町村と連携した入札契約制度の適正化（施工時期等の平準化、週休2日工事の実施、入札履歴手続きの集約化）等



〇【新】令和7年度 新規事業

3 快適でゆとりのある社会生活を創造する

(1) 地域の特徴と自然の恵みを生かした快適で魅力ある空間づくりの推進

歩きたくなるまちづくりに資する新しい街路空間の活用や良好な地域景観の形成に向けた取組を市町村と連携して推進します

- 〇歩きやすいまちづくり実証事業（信州まち・あい空間事業）
- 〇長野県景観育成計画改定事業
- 〇松本平広域公園魅力向上推進事業等



(2) 地域活力の維持・発展

官民連携による新たな魅力的で楽しいまちづくりを推進します

- 〇信州地域デザインセンター（UDC信州）事業等



(3) 本州中央部広域交流圏の形成

高速交通網を最大限に活かした交流の拡大を実現するため、道路整備を推進するとともに、リニア駅近郊におけるグランドデザインの実現に向け、取り組んでいきます

- 〇高規格道路整備事業
- 〇リニアを活かした交流圏拡大道路整備事業
- 〇リニア駅近郊グランドデザイン事業



(4) 移住・交流・多様なかわりの展開

移住などの住まいを確保するため、空き家等の市場流通を促進します

- 〇空き家等の市場流通促進事業【新】



(5) 世界水準の山岳高原観光地づくりの推進

観光地域の魅力を高めるための環境整備を推進します

- 〇観光地づくり推進に向けた道路環境整備事業（無電柱化、自転車通行空間の整備、道の駅のトイレリニューアル等）



(6) 「信州やまなみ国スポ・全障スポ」の開催を契機としたスポーツ振興の推進

総合開閉会式及び陸上競技の会場となる松本平広域公園陸上競技場の整備を推進します

- 〇都市公園事業（陸上競技場の整備）



4 誰にでも居場所と出番がある社会をつくる

子どもや若者の幸福追求を最大限支援する

住みやすい環境に配慮した県営住宅の改修等により、子育て世帯の居住を支援します

- 〇県営住宅「子育て住宅」リノベーション事業（県営住宅「5R」プロジェクト推進事業の一部）



〇「信州未来共創戦略」を進めるため、県土のグランドデザインを策定する

県土のグランドデザインの策定に向け、県民等と幅広い議論を開始します

地域課題を「連携」と「協働」で解決

〇地域戦略推進型公共事業  
地域の強みや特色を最大限に活かした地域振興を進めるため、地域のニーズを把握し、県・市町村・地域・民間事業者等の多様な主体による施策をパッケージ化して実施します

信州みちビジョン

●概要（背景と目的）

近年、道路に求められる役割が多様化するなど状況が変化する中、時代の要請に応じた道路の整備や活用など、みちづくりの方向性を示すものとして「信州みちビジョン」を策定\*（R5年度改定）しました。

今後、県民の皆さまの道路事業への理解を深める際に活用するとともに、道路事業実施時の指針としています。

\*「信州みちビジョン検討委員会」の議論に加え、意見交換会やパブリックコメントなど県民意見もふま策定

●基本目標と基本方針

- ▶基本目標 「つなぐ・まもる・いかす 信州のみちづくり」
- ▶基本方針
  - ・つなぐ（県内外をスムーズかつ効率的につなぐ）
  - ・まもる（災害や事故から県民等の命や暮らしをまもる）
  - ・いかす（道路の多面的な機能を地域づくりへいかす）

●重点分野と施策の展開

基本目標及び基本方針をふまえ、3点を重点分野とし、それぞれの分野ごとに施策を展開します。

重点分野Ⅰ 県土の強靱性

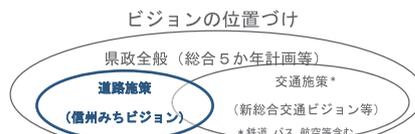
- (1) 災害に強い みちづくり
- (2) 災害対応の迅速化をめざした みちづくり
- (3) いつでも安心して移動できる みちづくり

重点分野Ⅱ 持続可能で快適な暮らし

- (1) 誰もが安全に移動できる みちづくり
- (2) 脱炭素社会の実現に向けた みちづくり
- (3) 歩きたくなる みちづくり
- (4) 快適な暮らしを支える みちづくり

重点分野Ⅲ 観光や産業の振興

- (1) 人・モノ・サービスが行き交う みちづくり
- (2) ストレスなく快適に移動できる みちづくり
- (3) 観光を満喫できる みちづくり



ビジョンの期間（2018～2027年度）

計画	期間	2013～2017年	2018～2022年	2023～2027年
総合5か年計画		→	→	→
新総合交通ビジョン		→	→	→
信州みちビジョン		→	→	→

